会議録

会議の名称	西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会・第２回会議
開 催 日 時	平成 27 年８月６日（木）午後３時 00 分から午後５時 10 分まで
開 催 場 所	田無庁舎３階　庁議室
出　席　者	（委　員）有賀委員、小関委員、近藤委員（代理：西委員）、坂口委員、徳丸委員、土堤内委員、長島委員、和田委員、 （欠　席）大河内委員、成田委員 （事務局）飯島企画部長、児山企画部主幹、佐野企画政策担当主査、長塚企画政策担当主査、支援事業者（(株)インテージリサーチ）
議　　題	１　開会 ２　前回会議録の確認 ３　市民意向等の結果及び人口ビジョン案の概要について ４　西東京市の強み・弱みと総合戦略の視点について ５　その他
会議資料の名　　称	（配布資料） 資料①　市民意向の把握（調査結果） 資料②-１　西東京市人口ビジョン案の概要（No. ２） 資料②-２　第１回策定懇談会での追加分析の視点および質問内容の反映について 資料③　めざす将来人口の考え方（人口シミュレーション案） 資料④　西東京市の強み・弱みの分析 資料⑤　総合戦略の取組視点 資料⑥　第１回策定懇談会会議録 （参考資料） ・（第１回資料）懇談会における今後の議論の視点およびスケジュール
記 録 方 法	□全文記録　■発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

会 議 内 容

１．開会

○小関座長：

本日は２名の方から欠席のご連絡をいただいておりますが、過半数に達してますので、西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会第２回会議を始めます。本日は傍聴の方が２名です。傍聴要領に基づきまして傍聴を認めます。前回の７月 10 日の会議で皆様からいただいた、人口減少を迎える西東京市の現状分析や影響等についてのご意見・ご指摘を可能な限り反映させた資料を作成してお配りしています。

２．前回会議録の確認

第１回の会議録について、修正箇所等の確認を行い確定した。

３．市民意向等の結果及び人口ビジョン案の概要について

○インテージリサーチ：

資料①～③に沿って説明

○小関座長：
　まず、お配りした資料の見方や解釈について、質問等があればお願いします。

○土堤内委員：
　西東京市でアンケート集計する際、23 区で練馬を除くというのが一般的なのですか。普通に 23 区と書いてある場合は、練馬も入っているのですね。

○インテージリサーチ：
　今回は、特に練馬区との動向を確認したかったので、こちらの会議用に練馬は別立てで集計しています。普通に 23 区とした場合は、練馬も含まれます。

○西委員：
　人口シミュレーション案の中で示している西東京市民の希望出生率は、今回のアンケート調査の結果によるものでしょうか。

○インテージリサーチ：
　西東京市民の希望出生率は夫婦の予定子ども数と独身者の希望子ども数の調査結果から算出しました。夫婦の予定子ども数は 2.16 人で、独身者の希望子ども数が 1.79 となっています。

○有賀委員：
　アンケート５ページのコメントの内容と７ページでの転出者のイメージは転出した人が西東京市について思っていることですか。

○インテージリサーチ：
　５ページのコメント部分は西東京市のイメージと転出入の決め手について記載しているため、一部は転出先のことについての内容となっています。７ページの図表は、西東京市に対するイメージとなります。

○土堤内委員：
　５ページの転出する人の特徴は「通勤・通学が便利」云々というところは、先ほどは転出先が便利という説明だったと思いますが、逆ですか。

○インテージリサーチ：
　西東京市のことなのか、転出先のことなのかがわかりづらくなっていますが、５ページの「各調査結果から見えたこと」の上から２つ目のコメントは、７ページの転入者、転出者が感じている西東京市のイメージについてとなります。また、上から３つ目のコメントは８ページの転入のきっかけで転入者が西東京市に対して、下から１つ目のコメントは９ページの転出のきっかけで転出者の転出先に対して感じている結果となります。

○徳丸委員：
　５ページの『西東京市から転出する決め手になったのは「通勤・通学が便利だから」「公共交通の利便性が高いから」など交通関連の項目での回答率が高い』というところは、便利だけど出て行ったのか、より便利なところに出ようとしているのか、どちらなのかよくわかりませんでした。

○土堤内委員：
　そうなると、転出者は西東京市を交通関連の条件が悪いと評価して出ていったことになりますが、そういう解釈でいいのですね。

○有賀委員：
　例えば、「買い物が便利」「気候が良く暮らしやすい」と書いてあるところは、転出者は市外の方をそう感じているということですか。

○インテージリサーチ：
　「気候が良い」というのは転出者の西東京市に対するイメージです。転出者には転出先のイメージも聞いていて、９ページにあるのは転出先のことです。「買い物環境がよいから」というのは、転入の決め手では、低かったけれど、転出の決め手では比較的上位となっています。

○長島委員：
　でも７ページのグラフでは、転入者よりも転出者の方が「買い物が便利である」という評価が高くなっていますね。

○徳丸委員：
　西東京市は便利だけど、もっと便利なところへ引っ越したいと思っているのですかね。

○インテージリサーチ：
　この結果からは、そうとも言い切れず、もう少しデータを詳しく見なければわかりません。西東京市で感じる便利さと、転出先で感じる便利さは異なる可能性があり、どこから転入したか、どこへ転出したかを確認すれば分かるかもしれません。

○土堤内委員：
　中身がしっかりわからないと、施策として何をしたらいいかわからないです。

○徳丸委員：
　７ページで「西東京市は買い物が便利だ」と評価した転出者が 45.5%に対し、９ページでは「買い物環境がよいから」と答えた転出者が 24.6%になっていて、数値が違うから「買い物環境が良い」という理由で外へ出た人が 24.6%だったことはわかります。

○土堤内委員：
　それは問い（属性？）の違いであって、理由にはならないですよね。

○和田副座長　：
　転出者は昨年度の転出者を対象にしているのですか。転出先の設定はしていないのですか。

○事務局：
　調査は今年の５月に１年以内の転出者を無作為に、1,000 人を抽出して実施しました。

○インテージリサーチ：
　転出先の設定もしてあります。今回、転出先のデータの提示はしていませんが、この後に話し合う予定の施策で、データを用意しながら議論をいただきたいと考えていまし

た。

○有賀委員：
　資料では23区となっていますが、どこの区が多いのかがもう少しわかるとよいと思います。転入・転出のところで、北多摩、23区隣接市、その他の多摩の市町村、23区、埼玉県と分類されていますが、この23区の内訳はどこなのかということです。

○インテージリサーチ：
　データがありますので、後日ご紹介します。

○徳丸委員：
　そのデータがあると、買い物環境と言っている人の状況が何となくわかります。

○小関座長：
　それでは、西東京市がおかれている状況、東京都や多摩の中でどういうポジションにいるのか、ご意見をいただきたいと思います。

○長島委員：
　資料①のアンケート調査についての意見になります。全体的に見て、西東京市は他のまちに比べて幸せなまち、多摩地区の中では24区的な、良い場所だと直感的に感じます。３ページでは就業意欲がすごく高いデータが出ていますが、他の市と比べてみたいと思います。働きたい気持ちを持っている女性が小学生以下と同居している場合でも 45.7%もいることは直感的にわかりますが、西東京市ならではのものではなくて、やはりこの世代の方は皆そうなのだと思います。それに伴い、有効求人倍率など働く場がどのくらいあるのかを見たい。４ページの女性の仕事に関するデータでは、無理なく働ける、自分の能力を活かせる仕事と出ています。調布市では、子どもに環境のいい場所をつくると同時に、短い時間働ける女性たちの働き場をつくるという施策で、調布の駅にアオナ（aona）という子育てカフェをつくりました。アオナ（aona）は働く人が62人ほどいるレストラン・喫茶店ですが、このような動きは24区的な場所として価値が出てくると感じています。４ページの起業の話は、自営業者、事業主、農業の起業って何だろうと愚問に感じました。やはり地元の中で起業したい人の率がこれほど高いことも見えてくるので、身の丈起業みたいなところを強めていく必要があると感じました。

○土堤内委員：
　意識調査を見ると、最初に西東京市の女性のM字の谷が深いという指摘がありますが、西東京市では女性の結婚意向が非常に高いので、やはり職住近接で女性が安心して働ける環境をつくることが西東京市の重要な施策ではないかという気がします。この後の資料で西東京市の強みと弱みというのがあって、このM字のへこみは弱みと書いてありましたが、同じことを見てもどう捉えるかで結果は全く逆になります。西東京市でM字の谷が深いのは、つまりそこにポテンシャルがあるわけで、その人たちが働ける条件をいかに顕在化するかによって、西東京市の最大の強みになるのではないかと思います。子育て支援だけではなく住宅の問題とか教育の問題とも関連しているので、どう総合的に整備するかが西東京市のポテンシャルを引き出す１番有効な方法ではないかと感じます。

○徳丸委員：
　周りのお母さんは働きたいと言う方が多いのですが、実際はバリバリ働いて子どもを

幼稚園に行かせるのは厳しいから諦めています。こういう調査でも、どうせ無駄だからと思って働きたいと言ってないかもしれないと思いました。今回の調査結果では、西東京市の人はこんなに結婚したいと思っていて、特に18～19歳の女の子は結婚意向が100％ですごくびっくりしました。チャンスなのでまちコンとか結婚相談をやったらどうかと思います。資料②-１の 69 ページで、多子世帯は中央線沿線の市よりは多いが多摩５市ではそれほど多いわけではないというデータはなるほどと納得し、子ども２人世帯が多いのは意外に感じました。祭りについて満足できている地域はありません。商工会で出している西東京市夏のイベントご案内では、田無駅より南の地域にはイベントがなく、商店街の力が弱いということなのかと思います。新しい住民が多いので地域の繋がりが弱いこともありますが、同時に商店街を形成している人たち同士の繋がりも少し弱いから、まち自体に活気がないのではないかと思います。

○坂口委員：
　人口減少時代に西東京市はどう対応するのかというテーマだと思いますが、そこが人口ビジョン案の概要とどう関わってくるのでしょうか。データを基に取組視点が４つ挙げられていますが、むしろもっと具体的な取り組みを検討したいと思います。データの事実に異論はありませんが、４つの視点をどのように具体化するのかが市民は気にしていることだろうと思います。

○小関座長：
　その点につきましては、参考資料で説明します。

○インテージリサーチ：
　本日は第２回目ということで、データを中心に議論をいただいています。坂口委員からのご指摘の内容は第３回と第４回での内容と考えています。４つの取り組みについてこの後に説明しますので、次回で具体的な施策を議論していただきたいと考えています。合わせて目標値についても、第３回、第４回でご議論いただきたいと考えています。

○西委員：
　資料②-１の 63 ページにある昼夜間人口の分析を見ると、西東京市はベッドタウンの感じが強いのかなと思います。同じような昼夜間人口で、人口が増加傾向にある自治体の基本計画等を参考にして、西東京市にも相応しい施策などを取り入れると良いと思います。

○有賀委員：
　隣接市と北多摩という分け方でいいのか、つまり西東京市の立ち位置をどこにするのかという議論は今後出てくるのではないかと思います。資料②-１の 69 ページに３人以上の子どもがいる世帯の東京都の地図があって、青いところは中央線沿線と都心部で、北多摩はオレンジとなっています。西東京市はどこを目指すのかは今後考えていくことだと思いますので、今日のデータは今後の参考になればいいと思います。

○和田副座長：
　資料②-１69 ページの多子世帯の分析に１番興味を持ちました。きれいにブルーとオレンジが分かれていて、その中でグリーンが際立っています。西東京市の年齢構成等は東京都全体と同じような動きをしていて、東京都をコンパクトにした地域だと認識していましたが、このデータを見ると東京都とも違っていて新しい発見でした。20 代女性の人

口が減少するという予測に対してどうするかという課題があり、未婚志向の女性や子どもを産まない選択もある中で、女性のライフスタイル・意識の問題をどう考えていくのかについて前回申し上げましたが、この調査結果では結婚志向が高いデータが出ています。親から独立する子ども世代がこの地区に留まって結婚してからも親と近い距離に住む可能性を考えると、将来世代と地域社会の在り方を面白く感じました。町内会のデータが地域包括支援センターの区域で分析されていますが、これを見ると町内会が組織されているところといないところが明確にわかります。この分析結果について、市ではどのように解釈しているのでしょうか。

〇事務局：
　分かる範囲で申し上げますと、田無駅より南部地域ではマンション建設の流れが進み、古くからの自治会とマンション組合などの違いがあると聞きます。芝久保町域では昔から自治会町内会が運営されていて数も多いと聞きます。全体の把握は出来ておりませんので、後日お伝えさせていただきます。

〇和田副座長：
　分析時に、そういったデータを載せていただけるとより深く検討できると思いますので、よろしくお願いします。

〇小関座長：
　今後、西東京市では少子高齢化が進んでいくわけですが、活力のある自治体として存続していくためにどういう方向を目指していくのか、どの層をターゲットに施策を展開していくのかについて意見をお願いします。合わせて資料③には様々な人口シミュレーションの結果が出ていますが、2060 年に向けて、西東京市はどのレベルの人口を目指したらいいのかについても意見をいただきたいと思います。

〇有賀委員：
　出生率は考えても答えは難しいと思うので、政策を考える時には人口パターンよりも社会的にどうしたらいいのか、活力を維持するための対策やターゲット層を考えていくようにした方がよいのではないかと思います。

〇坂口委員：
　人口の望ましい姿が定義されておらず、もう少し明確にする必要があるのではないでしょうか。政府のビジョンでも、ただ形骸的に生産人口が減るとか、子どもを増やすといった内容です。人口の望ましい姿を、抽象的でもいいので市の方で描いていくといいのではないかと思います。

〇小関座長：
　最終的には市の方で人口の望ましい姿のラインを決めていきたいと思っていますが、まずは皆さんの意見をいただきたいと思っています。

〇徳丸委員：
　子どもを産みたいと思う人が産める市でなければ人口は増えません。産みたいと思った時の障害というと、保育園の問題があります。子どもがいない人が子どもを産む前は自分の仕事を心配し、子どもが１人いる人が次の子どもを産む時には保育所のことを心配し、子どもが２人以上の人が心配することは保育所以外の部分というデータがありますが、すごく素直な結果が出ていると思います。そこを市がどのようにバックアップし

てくれるのかを知りたいです。もちろん転入者を増やすために市がアピールするのも必要だけれど、市の中で人口を増やすことを考えてもいいと思います。

○小関座長：
　目標とする出生率の規模が定まった時に、そのために必要とされる施策について次回以降に皆様から意見をいただくという組み立てを考えています。

○長島委員：
　人口ビジョンの中に産業や雇用の分析が足りない気がします。近隣市に少し大きな企業があって、そこに通うために住んでいる人もいるのではないかと推測しています。働く場所も皆がスーパーに勤めるわけではなく、企業や製造業に勤めている人も多いと思うので、その辺りが見えてくるとよい気がしました。

○有賀委員：
　どうしたら社会的な移動がしやすいかということで、西東京市に限らなくても近くでいい仕事があれば住みやすいということになるのではないでしょうか。その先には保育施設をどうするかということも当然ながらあります。練馬区を除く 23 区内で働いている人が 35.7%というデータがありましたが、つまり西武線で都心に行く人の３割しか練馬よりも先に行っていないということでしょうか。

○長島委員：
　半分以上が働いていない人だから西武線に乗って都心へ行く人はもっと少ないことになります。

○有賀委員：
　男性で 35.7%しか練馬区よりも東に行かないということですか。

○インテージリサーチ：
　35.7%という数字は、働いている人をベースにするとまた異なると思います。

○有賀委員：
　時間をかけて都心に働きに行っている人はもっといる気がします。そういう人たちが１時間以上の時間をかけて都心に行くよりは、いい仕事があれば近くで働きたいと思うことが予測できるので、そういう施策をやればよいと思います。

○土堤内委員：
　各自治体の総合計画で人口フレームをつくるのはどういう意味があるのかといつも疑問に思ってしまいます。大きなフレームの中での基本方針をビジョンとして定めるべきではないですか。日本全体でいけば 2050 年で１億人規模を維持するといったものが出ているので、それをベースにしながら何年においては現状維持するとか、あるいは何割程度とするといった設定の仕方が望ましいのではないかという感想を持ちました。

○和田副座長：
　かつてはどの自治体でも人口が増えることを前提に計画を策定する時代が長く続いていましたが、現在は人口が減る中でどういう計画をつくるかという時代に入ってきています。子ども世代、高齢者世代、生産年齢人口世代というように多世代がおり、職業的にもいろいろな人たちがいることが、バランスのとれた良い地域社会になるのではない

かと思います。はたして高度成長期の人口増の時代の人口構成比をよしとするのか。西東京市に子ども、お年寄り、働く世代、いろいろな世代がいるとなれば、世代ごとの施策を展開しなくてはいけないことになりますが、その辺りをどうするかではないかと思います。

○土堤内委員：
　人口減少は全体の数の問題もあるが、どういう構造になっているかが極めて大きい問題となっています。その後の施策に全て繋がっていくことなので、人口と世帯の構造の方向性をきちんと出すことが重要だと考えます。

○小関座長：
　様々な意見をありがとうございました。いただいた意見は次に繋げていきたいと考えます。

４．西東京市の強み・弱みと総合戦略の視点について

○インテージリサーチ：
　資料④、⑤に沿って説明

○小関座長：
　西東京市の強みを伸ばすために、あるいは弱みを克服するためにどうしたらよいかについて意見をいただきたいと思います。資料⑤の４つの取組視点はある程度国の方針に沿っていますが、就労、人口流入、結婚・出産・子育て、まちづくりといったことを西東京市に合う形で案として言葉を並べています。言葉のフレーズに対する意見でも結構ですし、今後検討すべき対策として他に考えられることについての意見もいただければと思っています。意見をいただいた中で、次回の会議の中では具体的にどういう施策を展開していけばよいのかと掘り下げる形にしたいと思います。

○徳丸委員：
　資料④にあるみどりの散策マップはどこで配っているのですか。市役所に来ないと手に入らないのでしょうか。

○小関座長：
　みどり公園課で配っており、ホームページでも閲覧できます。

○徳丸委員：
　小平市にあるブリヂストンの博物館は、民間の施設だけれど小平のグリーンロードの地図を配っていました。ブリヂストン博物館のある地域だけの観光マップには詳しい情報が載っていて、市の他の場所でも配っているらしいです。たとえば多摩六都科学館にその地域の散策路の地図があったらついでにちょっと散歩するかもしれませんし、駅にマップがあれば駅から歩くかもしれません。市の配布物を民間の施設に置いてもらえないのでしょうか。

○小関座長：
　今回の総合戦略の流れの中で、市のPRや弱みの克服という観点から、観光という切り口で観光マップを作ったり、スマートフォンの観光アプリを使ってナビゲーションを受けながらまち歩きができる仕組みを庁内で整備しているところです。

○有賀委員：
　市のマップは非常にたくさんありますが、どこで手に入るのかがわかりません。せっかく駅が５つもあるので、駅をもっと使った方がよいのではないですか。産業が減っているという話でしたが、人口データの 58 ページでは三鷹管内の職業安定所は求人がずっと伸びているデータがあり、このエリアは求人が増えています。西東京市に限るから減っているのかもしれませんが、働く人は西東京市内だけで働くわけではなく、自転車や歩いて行けるところに武蔵野市も小平市も練馬区もあります。そういう視点で物事を考えられると、いろいろなアイデアが出るのではないかと思います。せっかくリーサスで隣の市のデータもわかるので、それを出してもらえると話が広がりそうな気がします。

○土堤内委員：
　あるものを固定的な価値観で見るのではなく、とりあえずどんなものがあるのだろうと洗いざらい出してみて、それを資源にするためにはどうしたらよいのかという発想を持つことが重要ではないでしょうか。これが強みでこれが弱みというのではなくて、プラスの資源にするためにはどうしたらいいのかという考え方がいいのかなと思います。シティプロモーションの弱さは今のところ如何ともしがたいと思います。ネットで流山のホームページを見ましたが、ぱっと開けると流山の公式 PR サイトが出てきて、「母になるなら流山市、父になるなら流山市、子育てに積極的な若いお父さんが集まるまち、流山を子どもの故郷にする方々が増えています」というのを見ると、行ってみようかなという気持ちになります。どれだけの資源があるか、それを他の人にどう見せるかということをかなり戦略的に考える必要があります。そうすれば同じものがゴミではなく資源になっていくのではないかと考えます。あまり金をかけずに知恵さえ出せばもっとできることがあるのではないか、というのが私の考えになります。

○長島委員：
　総合戦略の取り組み視点については広域な視点が入っていないので、アクセスがいい場所であればこそ広域な視点を入れる必要があるかなと思います。多摩地域と広域連携をするよりは練馬区とやる方がいい感じがします。民間の力を使うことが出てきていないので、協働とか連携とか、民間の力をうまく活用していく視点が入った方がいいと思いました。強みと弱みの図で、認知が低いというところはまちのことを好きだと思って引っ越してきてくれる人がいる以上は、何らかの認知というか地域愛が育まれていくようにしていくという案が出てもいいと思いました。東京大学、早稲田大、武蔵野大学等、いろいろと書いてあるのですが、それらがあっても資源にはならないと思います。繋ぎ合わせる人や力がないことが弱みではないかと思っています。中間支援であるとか、商工会、市役所がよい資源をうまくつなぎ合わせながら、もっと素敵なまちにしようということをやると資源になるのではないかと思います。弱みのところにイベント性はたくさんなくてもよく、繋ぎ合わせる力が足りないということが入るといいと思います。

○西委員：
　西東京市は何でも揃っているのに何か特徴がないという話があったと思うのですが、いろいろと打ち出すよりは選択と集中で目立つようにした方がいいのではないかと思いました。民間活力の利用という意味では、市内だけで完結させるのではなくて、東京都の中小企業振興公社や経済産業局など、いろいろな外部の力を使ってアウトソーシングしながら全体でよくなればよいのかなと思いました。

○坂口委員：
　強み、弱みという概念でまちや市全体を捉えること自体がおかしいと思います。強み、

弱みといった言葉はあまり良い印象ではありません。すでに全国の街はそれぞれ、その街なりの空気を作って存続しているのですから、ちょっと官僚的な上から目線を思い浮かべます。むしろ、今ある空気をもっとフレッシュで、さわやかにしていこうというスタンスで、調査データなどを語っていただきたいですね。強いとベスト、弱いとプワーということになりがちなので。ところで４つの視点は基本的に賛成ですが、取組視点１の働く場づくりとして、地域産業を活性化するというのは今回のまちづくりの重要なポイントだと思っていますが、課題と検討すべき対策がちょっと陳腐ではないでしょうか。ベッドタウンとして大手企業が出ていってその結果、財政にも影響があると思っています。企業を誘致すれば女性の就業もできるわけで、教育産業、観光産業、ソフト産業の誘致や都市農業についての課題や対策という言葉がもっと出てきても良いのではないでしょうか。

○和田副座長：
　第２次の総合計画の策定を検討している時に、西東京市内を案内していただきました。私以外は市内在住の方でしたが、こんなにいいまちなのかというのが一致した意見だったと記憶しています。とりわけ都市農業が緑の保全に重要な役割を担っていることを実感しました。この資源をどのように活用していくかが大事だと思いました。また、イベントについては、どういうイベントをイメージしているのかよくわかりません。大きいイベントをつくるのか、反対に小さいものがいいという考え方もあります。例えば 10 月１日に市内の各地域で小さなお祭りを開催し、まち全体として、どこへ行っても祭りが行なわれているような、連携イベントも考えられます。

○有賀委員：
　民間活用という部分で事業所の話が出ましたが、一般市民をもっと活用した方がいいです。たとえばお祭りだって、市が補助金を出して 10 万人も来るというような大きな市民祭りもあるけれど、実際に市民がやっている小さなお祭りもあります。普段市民はいろいろな活動をして、市の職員とは違う意見や掴みきれていない意見もあるので、それをどう掴むかが大切だと思います。それがないと市の職員だけの負担になって、せっかくいいプランをつくったのに現実味がないといったことになります。意欲のある市民の方をうまく使うといいアイデアが出る気がします。

○土堤内委員：
　取組視点４の文章で、「安全なくらし」と書いてあるが中身を読むと地域コミュニティの再構築の話なので、むしろ「安心なくらし」ではないのかと思います。

○有賀委員：
　取組視点３では「転出抑制が必要」とありますが、「転入増加を図る」という言葉も一緒にあってよいのではないかと思います。

○和田副座長：
　取組視点２の「定住者」という言葉は変えた方が良いのではないでしょうか。

○徳丸委員：
　「定住者」と聞くと外国人がいっぱい住めばいいのかなと一瞬思いましたが、そうではないですね。ずっと住んでいる人という意味ですね。

○坂口委員：
　「転出抑制が必要」というのは言葉の使い方が役所っぽいというか、人に優しいまちでまちをもっと楽しもうと市民に呼びかけているのだから、もう少し優しい言葉を使った方がよいのではないですか。

○土堤内委員：
　「定住者」というのも流山だったら「子どもが故郷と思えるまち」という言い方をしています。世代を超えて定住していくという意味で故郷と思えるまちにするとか、そこまでイメージを拡大してもいいのではないかと思います。

○小関座長：
　他にも視点についてご意見があれば２週間後以内で事務局までご連絡いただければと思います。

○インテージリサーチ：
　資料について様々ご提言をありがとうございました。中身、言葉の使い方について、足りていない所もあったかと思いますが、ご意見を踏まえて、次回はより具体的な検討に入りたいと思います。

○小関座長：
　次回の第３回は、施策の内容などについても検討をしたいと思います。

５．その他

○事務局：
　第３回の日程ですが、候補日は９月 14 日（月）又は９月 15 日（火）を考えております。８月 12 日（水）を目途にメールかファックス等で事務局の方へ連絡をお願いします。

○小関座長：
　以上を持ちまして第２回会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

（閉会）